



はじめに

去年に引き続き、今年も当施設への多大なるご寄附、ありがとうございます。去年いただいたお金は男子居住棟の建て直しに使わせていただき、「ライオンハウス」と命名させていただきました。今年はどう使うことが一番いいだろうか、と、スタッフたち、こどもたちからも意見を募って話し合ったところ、「**卒業生やその親族の就業支援に使おう**」という案を採用することにしました。

単にスタッフの給料として使うのではなく、誰を、何のために、どのくらいの期間雇うのか、そして、その期間が終了したあと、どうなるのかを考えた上で、以下の2人の雇用を決定しました。

1. 卒業生アルチャー

アルチャーは13歳から16歳までハウスオブジョイで育ちました。(写真右端)



弟と一緒に施設に来たのですが、その弟の素行があまりよくなく、問題行動を起こして弟がハウスオブジョイを出ることになったときに、「弟を放ってはおけないから」と、高校を辞めて本人もハウスオブジョイを出て行きました。その後、職を転々としながら弟の世話を焼き続け、ようやく弟が自立したので本格的に仕事を探すことにして、ハウスオブジョイに戻ってきました。

できればつきあいのある日本人が運営する会社や工場に紹介してやりたいところなのですが、どこも今は人員が足りているようで、仕事がありませんでした。

そこで、ハウスオブジョイでアルチャーをスタッフとして雇えないかということになりました。ここで育った子がここでスタッフになることほど心強いことはありません。これ以上にこどもたちの気持ちに寄

り添えるスタッフはいませんから。



給料と保険料などが1年間で約20万円ほどかかるので、40万円あれば2年の契約が可能です。2年間あれば働きながら彼は次のステップに向けて資格を取ることも可能ですし、運転や車の修理などの技術を学ぶこともできます。

2. 母親サロメ

サロメはハウスオブジョイから車で30分ほど山を登ったところに住んでいます。



ものすごい田舎で、水道も電気も通っていないところで、畑をやって、そこで獲れた野菜を市場に売りに行ったり、そこで獲れたキャッサバでお菓子を作って売ったりして、なんとか生計を立てています。7人のこどものうち、上の4人に遺伝的な原因で視力障害があることから、ハウスオブジョイに入りましたが、4人ともハウスオブジョイを卒業し、2人はマッサージ師として働き、もう2人は手術で目が見えるようになったので大学と専門学校に通っています。



ですが、下にまだ 3 人の子どもがいる上に、親戚の子どもを何人も預かっており、生活は相変わらず困窮しています。

このお母さんを、最近こちらの小学校と協働して始めた「給食プロジェクト」で、スタッフとして雇うことにしました。パートなので月給は 1 万円ちょっとですが、週末や休日は今まで通り、野菜を売ったりもできるので、これで生活はかなり安定するはずです。



今年度と来年度の 2 年間の契約で、かかる人件費は約 30 万円ほどです。2 年後には今大学と専門学校に通っている 2 人の娘が卒業し、働き始めるので、その後は兄弟たちで助け合って自立していけるはずで
す。(写真右から 2 番目)

おわりに

以上 2 名を「ライオンスタッフ」として、いただいたお金で 2 年間雇用し、貧困問題の解決の一助としたいと思います。ご理解いただければ幸いです。なお、余剰分のお金につきましては、ハウスオブジョイの運営資金として、子どもたちの生活費に使わせていただきます。ありがとうございます。